



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2025年04月07日 第1212号「週刊五十嵐レポート」

非常識に考える

3月30日付日経新聞、「直言×人財立国への道」は花巻東高校野球部・佐々木洋監督のインタビュー。

物事を非常識に考えることを大事にしている。大人の役割は子どもの可能性を広げ、伸ばすこと。人材育成方法は野球から学んだことより経営や異業種から学んだことの方が多い。非常識にものを考えることもその一つ。

なぜ自分の学校に良い選手が来ないのかわからなかった。生徒を顧客とみれば、当時はプロ野球や大リーガーはもちろん、大学進学、就職も実績がなかった。これでは顧客は来ないと気づいた。そこでまずは「出口戦略」から始めた。良い選手を集めるよりも、まずはきちんと教育して、大学や企業が欲しがらる生徒を育てることを自身の目標に据えた。成果が出始めると、優秀な選手が入学するようになり、チームも強くなっていった。

私の仕事は野球部員を勝たせて甲子園に連れていくことではなくて、その後の60年以上を勝たせること。自分で目標設定をしてみて、その重要性に気づいた。子どもが目標や進路を定めるように導いてあげるのが仕事。自主性と主体性を持つためには、目標設定の仕方をしっかりと教えることが重要。

感染症と同じように思考も周囲に感染する。「良い思考を持つ人と濃厚接触し、他人や環境のせいにする思考の人とはソーシャルディスタンスを保ちなさい」と呼びかけている。他人のせいにする思考を捨てる人が増えれば日本は大きく変わるのではないかな。

今後世界を意識して、各国の学生から花巻東で学びたいと思われる学校をつくる必要がある。アフリカの選手を野球部に入部させる構想もある。日本でとがった人材を生み出すには海外に留学させて日本に戻すシステムをつくる必要がある。親や指導者が世界の現状を見せる機会をつくることも必要。一度行って帰ってくれば意識と意欲は変わる。

中小企業が中堅企業へ脱皮するには、佐々木監督の話にヒントがある。香港・深圳に行って感じたのは、日本の常識を捨てて、「デタラメ」になってみた。「デタラメ」になった途端、対応力がつき、「新しいもの」が見えてきた。

ちょっと
気になる出来事

3月30日～4月4日まで香港・中国深圳へ行ってきた。久々の海外一人旅。知らない所に行くのは不安と期待が入り混じっていた。ただ深圳で友人と再会するのは楽しみであった。

6年前、日本経済新聞社主催の中国視察ツアーに参加して、その時に日本語通訳者だった彼女と知り合った。その後は微信で友人になり、定期的に連絡を取っていた。彼女は今、深圳市に隣接した中山市に在住し、結婚され3歳の子供がいる。

当日、子どもは幼稚園に預け、夫婦2人で愛車BYD「漢（ハン）」に乗ってきた。BYDにはじめて乗ったが、静かで乗り心地はいい。「BYDありかも」。最近日本車が売れていないとのこと。買う人はほとんどEVからハイブリッド。ガソリン車は買わない。ガソリンで走る時より、電気で走る方が燃費がいい。深夜に充電すると昼間より安いので、更に燃費が良くなる。

2人と話していると、いろいろと話が膨らんでくる。ビジネスのヒントが見つかる。やはり人と会って、話をすることの価値を再確認した。



一口メモ
知識

未熟さを知る

火水未済（かすいびせい）の「未済（びせい）」とは、未だ川を渡り終えていないということ。つまり未だ何もしえていない、未完成、未熟な時を説く。

そんな未熟さを小狐（こぎつね）が川を渡ることによって喩えている。狐はふさふさとした大きい尾を持っているが、水を含むとずっしりと重くなって泳ぐには負担がかかる。

成長した狐は尾を高く上げて川を渡る知恵があるが、小狐は岸までもう少しという所で尾を濡らし、渡り切れない。未熟者は蛮勇をふるって事に臨むが、九分通りまで行ったところであと一歩が成せない。小狐が失敗するのは、知恵や技術の以前に自分の未熟さを認識できないからである。

「未済は亨（とお）る」とは、未完成が完成に至ること。これではだめだと未熟さが身に染みた時から、完成への道が開けるのである。どんなに人生の経験を積んでも、自分の未熟さに気づくことは新たな希望でもある。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

